

# しおや訪問看護ステーション

矢板市富田 77



管理者  
松本恵美子 様  
利用保険割合  
医療保険：3割  
介護保険：7割

医療依存度の高い方から、独居の認知症の看取りまで、看護の幅の広さには驚きました。また訪問看護の利用者さんが通所リハビリにきているときの様子を見て、スタッフ同士の情報交換もでき、利用者さんの生活を丸ごと見ながらケアできることは理想的だと思いました。(記者より)

## 施設のアピール

しおや訪問看護ステーションは、国際医療福祉大学塩谷病院に併設されたしおや総合在宅ケアセンター内に設置されています。看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の専門職がご自宅を訪問し、病状や療養生活を見守ります。適切な判断に基づいたケアとアドバイスを行い、在宅での療養生活を支援しています。また医師や関係機関と連携しながら様々な在宅サービスを使い方を提案します。



訪問看護スタッフのみなさんです。今回は、左から2番目の管理者の松本さんにお話を伺いました。

## 連携している主な医療機関

国際医療福祉大学塩谷病院を始め、近隣の医療機関と密な連携を図っています。

## 施設の役割や特徴について

～高度医療にも対応した看護～  
医療機関併設の利点を活かし、難病や看取り、高度医療処置などの経験豊富な看護師による看護ケアの提供をしています。訪問看護と連携しながら訪問リハビリも行っており、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士によるリハビリテーションの提供により、在宅療養を支えています。

また、隣接する国際医療福祉大学塩谷病院を中心として、しおや総合在宅ケアセンター内にある通所リハビリテーションや、附属関連医療福祉施設との連携により、急性期～回復期～在宅療養へと円滑な移行を支えつつ、その人の生活に寄り添いながら見守っています。

## 心に残った患者さんとのエピソード

～コロナ禍での在宅看取り～  
コロナ禍で、多くの病院では面会禁止となりました。そんな中、レスパイト入院をしながら在宅療養を継続してきた神経難病の利用者さん、認知症のある独居の利用者さんなど、在宅での

看取りに至った利用者さんがいました。中でも家族の意思決定に関われたことは印象深く残っています。

最初に訪問のきっかけとなったのは、本人と家族に主治医から「訪問看護を受けながら在宅で看取りもできますよ。」と説明があったことでした。本人と家族は、診察の後、何をどうしたらよいのか分からないまま訪問看護ステーションにきました。私たちは訪問看護について説明をしましたが、本人も家族も「どうしよう」と不安が大部分を占めていたようでした。

最初は不安の中でスタートした在宅療養も、家族の気持ちに寄り添いながら支援し、落ち着いて過ごせるようになりました。ところが、あと少して看取りというところで急に病状が悪化しました。家族の負担も大きくなることが予想されたため、訪問看護師から、「どうしますか？今なら入院して看取ることもできますよ。」と家族の意向を再度確認しました。それでも家族は「このまま家で。」と在宅を選び、最後は穏やかな看取りができました。後から家族に聞いた話では、最初は在宅での看取りは不安だったけれど、訪問看護のサポートがあったことで、最後まで在宅で看取る覚悟ができたのだそうです。訪問看護が家族の意思決定に関わり、良い形で最期を迎えられたケースでした。

## ケアマネジャーとの連携で

### 思うこと

介護保険サービスの中で、訪問看護は費用が高いので敬遠されがちなところもありますが、ケアマネジャーからの支援依頼は有難いと思っています。医療との連携など、訪問看護の得意分野を活かしながら、神経難病やがん末期の利用者さんの支援でも、一緒に考え、よりよい在宅ケアになるように関わりたいと思っています。



ステーションは国際医療福祉大学塩谷病院の西側に併設されたしおや総合在宅ケアセンターの中にあります。(写真はホームページから引用。)